令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立大成中学校 ）　　学校番号　２２５

【様式】

目指す学校像	生徒一人ひとりを大切にして、生徒の豊かな自己表現を目指す学校

重点目標	
	１　個別最適な学びと協働的な学びの一体化 ２　安心・安全な教育環境の醸成 ３　地域の信頼に応える開かれた学校づくり ４　教職員一人ひとりの特性を伸ばした指導力・組織力の向上

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和５年２月１５日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	（現状） ○令和３年度全国学力・学習状況調査では、国語・数学ともに全国・市平均を上回っている。 ○令和３年度市学習状況調査において、学習に対する関心・意欲に関する質問に肯定的な回答をした生徒の割合は市平均に比べ、国語、数学、社会でやや高く、理科、Ｇ・Ｓでやや低い。 ○学習に関しては、授業に集中し、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 （課題） ○令和３年度全国学力・学習状況調査では、国語の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」について全国平均は上回っているが、市は下回っている。また数学の「関数」について全国は平均を上回っているが、市は下回っている。	・情報端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体化の実現	①スタディサプリ、デジタル教科書等のデジタル教材を学校や家庭において活用し、学力を向上させる。 ②全国及び市の学習状況調査の結果を基に、市教委の学力向上カウンセリング研修を受けることで自校の課題解決を図る。	①学校評価（生徒）の授業に関する項目において、肯定的回答率が８０％以上となったか。 ②学力向上カウンセリング研修により、自校の課題解決に向けて、各教科における授業改善等の手立てを明確に設定することができたか。	学校評価（教職員）の「ICT 機器を活用した学習指導の効率化」については、９０％が「効率化が図られている」という回答であった。エバンジェリストを中心とした校内研修が充実したことも要因であると思われる。また学校評価（生徒）の「学習面での自己の問題解決」に関する項目でも肯定的回答が９１％であった。 学力向上カウンセリング研修では、本校生徒の傾向を教職員全員で情報共有でき、各教科の課題解決に向けての取組の方向性が明確になった。	A	次年度も生徒の実態を把握し、様々なデジタル教材等を活用しながら、生徒の学力を向上させる。 また次年度も「学力向上カウンセリング研修」の実施を視野に入れておく。	概ね肯定的な意見をいただいた。 学校運営協議会委員から「以前から本校の生徒は、学力が高いイメージがある」という言葉があった。
		・「ＳＴＥＡＭＳ ＴＩＭＥ」の実施による探究的な学びの実現	①「ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥ」においてプログラミング的な思考を取り入れ、単元を創出し、実施する。 ②教員と生徒が共に学び、試行錯誤しながら、現代的な課題解決を目指す取組を実施する。 ③学習指導する中で、「思考力・判断力・表現力」の育成を図る。	①本校におけるプログラミング的思考を取り入れた課題解決学習を実施することができたか。 ②「ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥ」実施後の生徒アンケートにおいて「思考力・判断力・表現力」に関する項目において、肯定的回答率が８０％以上となったか。	「ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥ」でのプログラミング学習では、技術の授業と総合的学習の時間にマインクラフト等を活用し、教師と生徒が共に学ぶ現代的な課題解決に向けた取組を実施した。それに関する生徒の「思考力・判断力・表現力等が身に付いた」というアンケートでは、肯定的回答は７９％であり、数字の上では目標の８０％にわずか１％及ばなかったが、指導に関しては、達成できたと言える。	B	「プログラミング学習」をゲーム感覚だけに留めず、効果的に活用し、生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成ために、更に指導の工夫を重ねていく。	
2	（現状） ○令和３年度全国学力・学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的回答をした生徒の割合は全国平均を上回った。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる生徒のけがは「なし」である。 （課題） ○一小一中の環境下にあり、小学校から人間関係がほぼ変わらないため、新たな人間関係を構築することに抵抗を感じている生徒が多い。生徒の発信するサインを素早く受けとめ、支援や相談体制を一層確立することが課題である。 ○一小一中の環境下に加え、コロナ禍で教育活動が制限される中、生徒一人ひとりが生き生きと自己表現できる力の育成が課題である。	・生徒一人ひとりへのきめ細かい支援や相談体制の充実	①心と生活のアンケートを各学期初めに実施し、生徒全員の二者面談を実施する。 ②生徒指導委員会や教育相談部会中心に課題のある生徒について情報共有しながら指導体制を確認し、生徒の対応に当たる。	①学校評価（生徒）の「気軽に相談できる先生がいる」という内容において、肯定的回答率が８０％以上となったか。 ②学校評価（保護者）の「子どもについて気軽に学校に相談できる」という内容において、肯定的回答率が８０％以上となったか。	学校評価（生徒）の「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」という項目では、肯定的回答が７７％、また学校評価（保護者）の「子どもについて気軽に学校に相談できる」という項目では７８％と、８０％にわずか及ばない結果であったが、各学期初めに行われる「心と生活のアンケート」の結果を重視し、生徒全員の二者面談を行うことで、生徒個々の課題や悩みを引き出し、解決に向けて概ね組織的に対応できた。また、学校評価（教職員）の「教育相談に関する家庭との密接な連携」や「ＳＣや相談員との連携」については、共に９５％が肯定的回答であった。	B	引き続き、生徒一人ひとりに目を向けた指導を行うことで、保護者との信頼関係を更に構築していく。	概ね肯定的な意見をいただいた。 学校運営協議会委員から「不登校生徒への対応について」の質問があり、現状と取組について回答した。
		・安全な生活の実現に主体的に取り組む生徒育成に向けた教育活動の充実	①生徒会中心の活動である「成中いじめ対策委員会」を学期ごとに実施し、生徒自身が意見交換することで、いじめの未然防止を図る。 ②月１回の安全点検をはじめ、感染対策に重点を置いた環境設備の充実を図る。	①学校評価（生徒）の「いじめを許さない、見過ごさない」という内容において、肯定的回答率が８０％以上となったか。 ②学校評価（教職員）の環境整備や安全管理に関する項目で、肯定的回答率が８０％以上となったか。	学校評価（生徒）の「いじめを許さない・見過ごさない」という項目では肯定的回答が９５％と高かった。生徒会の「成中いじめ対策委員会」での生徒の意見交換の場が大きく影響していると思われる。 学校評価（教職員）の「学習の整備や安全管理に努めている」という項目では、肯定的回答が９０％、「健康の増進」に関する項目では、肯定的回答が９５％であった。月１回の安全点検に加え、破損個所について教職員から直接、報告を受けることもあり、意識は高い。	A	更に「生徒自身が問題提起し、解決方法を考える力」を育成し、生徒一人ひとりが生き生きと活躍できる教育環境づくりを行っていく。 また、生徒一人ひとりに全教職員であたたかい指導を行っていく。	
3	（現状） ○昨年度、大成小・中学校運営協議会準備会を立ち上げ、大成地区の「育てたい子ども像」について熟議することができた。 ○コロナ禍において、保護者会や行事については感染拡大防止を念頭に置き、工夫しながら学校を公開する機会を増やすことができている。 （課題） ○今年度は、学校運営協議会を中心に大成地区の「育てたい子ども像」について、家庭をはじめ、地域全体に広めていく。また、具体的な取組の実施に向けて、小学校及び地域と共有できるよう熟議を重ねていく。 ○コロナ禍において、オンライン等を活用するなどし、更に工夫を重ねながら、教育活動について外部発信していくことが課題である。	・学校運営協議会を通した家庭や地域との関係性の構築	①学校運営協議会を年間３回以上実施する。 ②学校だより及びＨＰ等を通し、生徒の活動や成長過程を家庭・地域に発信し、「育てたい子ども像」の姿等を共有する。	①学校運営協議会を年間３回以上実施することができたか。 ②学校評価（保護者）の地域との連携に関する項目で、肯定的回答率が８０％以上となったか。	今年度は学校運営協議会を対面式で、年間３回実施することができ、大成地区の「育てたい子ども像」が決定し、来年度の学校と地域との取組について熟議を行った。 学校だより等でも学校運営委員会の取組について、広報を行ってはいたが、学校評価（保護者）の「地域との関わり」に関する項目では、肯定的回答率は低い状態にあるのが現状である。	B	引き続き、学校運営協議会の運営について考えるとともに、保護者及び生徒が地域への関心を高めるために、学校として地域行事を大切に考え、関係諸団体と連携し、できることを工夫して行っていく。	概ね肯定的な意見をいただいた。 学校運営協議会委員から「地域にも学校公開される機会があるとよい」との御意見があった。 また、次年度は大成公民館への中学生の参加依頼をいただいている。 （美術部生徒による絵画教室への参加）
		・コロナ禍における教育活動の公開の充実	①感染対策を考慮しながら、オンライン等を活用するなどし、可能な範囲で保護者や地域に学校を公開する機会を作る。 ②大成地区の「育てたい子ども像」である『人にやさしく　たくましく生きる大成の子』の実現に向けて、学校と地域が協働した取組内容を具体的に決定していく。	①保護者を中心に学校行事等について状況を判断しながら、適切に公開することができたか。 ②学校評価（保護者）の学校の取組に関する項目について、肯定的回答率が８０％以上となったか。	コロナ禍３年目における教育活動については、状況を的確に判断し、工夫を重ねながら、かなり緩和した公開ができた。体育祭では３年生の保護者のみの観戦とし、学校独自でライブ配信を行った。また、合唱コンクールでは生徒を最優先したため、保護者の参観はなく、ここでもライブ配信を行った。更に３学期に「授業参観週間」を設けたことにより、保護者に授業を公開することができた。 学校評価（保護者）の「学校行事等の取組」に関する項目では、肯定的回答が９２％であった。 学校運営協議会では、大成地区の「育てたい子ども像」の実現に向けて、来年度の学校と地域との取組の一つとして「地域清掃活動」を実施することとした。	A	次年度も学校行事を中心に、保護者や地域の方々と関わりが持てるよう、学校公開の機会を増やすための工夫・改善を図る。	
4	（現状） ○『「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けた授業～ＩＣＴを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体化充実に向けて～』を研究主題とし、計画的に校内研修を実施し、課題研究を進めている。 ○教師の指導力・学校の組織力向上のための研修を計画的に実施する。 （課題） ○ＩＣＴの授業活用については全教員の共通理解の下、実施することが課題である。 ○経験年数の少ない教師への様々な指導法の継承が課題である。	・個別最適化な学びと協働的な学びの一体化の充実 ・教職員の特性を活かした指導力・組織力の確立	①研究推進委員会を中心に、課題研究に向けた校内研修を計画的・組織的に実施する。 ②エバンジェリストを中心に、授業における効果的なＩＣＴの活用について、計画的に研修会を実施する。 ③指導主事やスクールロイヤーを招聘した研修を実施することで、指導力・組織対応力を向上させる。 ④管理職による教職員の事故防止に関わる研修を適宜行う。	①課題研究に関する校内研修を年間１２回以上実施することができたか。 ②エバンジェリストを中心に、ＩＣＴの活用について計画的に研修会を実施できたか。 ③教職員の資質向上に関わる校内研修を年間４回以上、実施することができたか。 ④学校評価（教職員）の学習指導や研究関係の項目において、肯定的回答率が８０％以上となったか。	研究課題に向けて、研究主任を中心に、ほぼ計画的に校内研修を行うことができた。その中に、エバンジェリストによる「授業における ICT 機器の効果的な活用方法」を組み込んだことにより、授業での ICT 機器の活用率に繋がった。また、日頃から気軽に相談できる人間関係が構築されていることも影響していると推測できる。 学校評価（教職員）の「授業でのコンピュータの活用」に関する項目では、肯定的回答が９５％であり、活用率はかなり高い。また「学習指導」に関わる全ての項目において肯定的回答が８０％以上であった。 「教職員の指導力・組織力の確立」については、日頃から事故防止等について管理職が指導、伝達を行った上、資質向上に関わる研修を年間４回以上行うことができた。特に上述した指導主事を招聘した「学力向上カウンセリング研修」に加え、弁護士を講師とした「スクールロイヤー研修」では、「保護者からのクレーム対応」等について、専門家の意見を聞くことで、対応策を学ぶことができた。	A	次年度も「生徒の個別最適化の学び」のために、教職員の資質・向上を目指し、校内研修をはじめ、専門家等による研修の充実を図る。 また、引き続き、教職員の事故防止について、意図的、計画的に指導していく。	概ね肯定的な意見をいただいた。